

令和3年度 第3回在宅医療・介護連携推進会議

次 第

日時 令和4年2月3日（木）午後7時から

場所 W e b会議

1 開会

2 議題

- (1) 令和3年度における各事業実施状況について
- (2) 各部会における検討状況について
- (3) 各職種における在宅医療・介護連携の改善要望項目について

3 その他

次回開催予定 令和4年7月14日（木）午後7時から

4 閉会

【配付資料】

- (1) 令和3年度における各事業実施状況について（速報値）
- (2) 小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について

令和 3 年度における各事業実施状況について（速報値）

No.	取組	事業概要	事業区分	令和 3 年度 実施予定	実施状況（令和 3 年 1 2 月 2 8 日現在）
①-1	小金井市医療資源マップの作成	市民に医療資源に関する情報を共有するため、医療マップを作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	市ホームページで普及啓発を行うとともに、介護福祉課窓口等にて配布。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、配架場所を増やしたい。
①-2	介護サービス事業所一覧の作成	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	6 月及び 1 0 月に更新作業を実施。介護福祉課窓口で配布
①-3	患者基本情報シートの作成	入院時に病院が使用することを想定した患者基本情報シートを作成し、ケアマネジャーへ配付の上、運用を開始する。	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	運用	第 1 回入退院支援部会で「患者情報基本シート」は使用しないことを決定 第 2 回同部会で市として新たなシートの作成は行わないことを決定
②-1	在宅医療・介護連携推進会議の実施	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	実施	在宅医療・介護連携推進会議を 3 回実施 各部会の実施状況については、資料 2 のとおり
②-2	小金井もの忘れ相談シートの活用	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	市ホームページで普及啓発を行っているとともに、民生委員による 7 5 歳・8 0 歳訪問の際に「高齢者福祉のしおり」を配布しており、そちらにも掲載し、普及啓発を図っている。 その他市窓口にて配布
②-3	主治医連絡票の活用	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	市ホームページに掲載し、普及啓発を図っている。
②-4	ケアマネタイムの活用	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	4 月に医師会から情報提供を受け、同月中にケアマネ向けにメールにて配信済み。希望者には介護福祉課窓口でも配布
②-5	情報共有研修会の実施	医療・介護事業者等の関係機関の情報共有に関する研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	実施	別紙「資料 1 - 2」のとおり

No.	取組	事業概要	事業区分	令和3年度 実施予定	実施状況（令和3年12月28日現在）
②-6	在宅医療・介護連携支援室の設置	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援	実施	支援室を設置し、医療・介護関係者からの相談等に対応していく。
②-7	在宅医療ケア勉強会の実施	医療・介護事業者等の関係者に対して在宅医療・介護連携に関する研修等を実施する。	カ 医療・介護関係者の研修	3回以上実施	別紙「資料1-2」のとおり
②-8	北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	普及啓発	9月に実施機関ナビの更新のため、確認依頼を受け、小介連へ照会の上、10月に回答を送付
②-9	近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	実施	電話・訪問・MCSのグループにて連携・情報共有を行っている。コロナ禍であり、個別訪問や各市集まる等での情報提供はしていない。
③-1	お元気サミットin小金井の開催	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。	キ 地域住民への普及啓発	講座満足度77%	令和3年11月10日及び11日に小金井 宮地楽器ホールにて「お元気サミット・介護みらいフェス展示会」を実施 来場者 211人 アンケート未実施
③-2	在宅療養についてのリーフレットの作成	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。	キ 地域住民への普及啓発	配布	令和2年度に改訂を行い、市ホームページへの掲載及び介護福祉課窓口にて配布。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、チラシ等の配架を中止している医療機関が多く、十分に配布が進んでいない。状況を見定めて可能な限り配布を行っていく。

令和 3 年度小金井市在宅医療・介護連携推進に係る研修の実施状況について

1 在宅療養推進事業

No.	開催日時	内 容		開催状況
1	令和3年10月20日	第 1 0 回多職種連携研修会	特別養護老人ホームについて学ぼう！	W e b 開催
2	令和4年1月26日	第 1 回看取り講演会	対話から始める A C P ～現状確認ツールIMADOKOを活用した事例とグループワーク～（全 2 回）	
3	令和4年2月2日	第 2 回看取り講演会	対話から始める A C P ～現状確認ツールIMADOKOを活用した事例とグループワーク～（全 2 回）	
4	令和4年2月16日	I C T 研修会	M C S に関する研修会（未定）	
5	令和4年3月1日	第 1 1 回多職種連携研修会	通所介護等に関する研修会（未定）	

2 在宅医療・介護連携推進事業

No.	開催日時	内 容		開催状況
1	令和3年6月23日	第 1 9 回在宅医療ケア勉強会	訪問リハビリって何ができるの？どんな人が受けたらいいの？作業療法士が行う認知症ケアって？	W e b 開催
2	令和3年9月8日	第 2 0 回在宅医療ケア勉強会	在宅訪問管理栄養士さんの役割を知っていますか？	W e b 開催
3	令和3年11月16日	第 2 1 回在宅医療ケア勉強会	認知症の人を支える地域の” 輪 ” 作り	W e b 開催
4	令和3年11月17日	I C T 研修会	みまもりあいアプリについて知ろう！	W e b 開催
5	令和4年1月18日	第 2 2 回在宅医療ケア勉強会	訪問看護、医療保険と介護保険どう使い分けるの？	W e b 開催

小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について

	日常療養支援・多職種連携研修部会	入退院支援部会	急変時対応・看取り支援部会	I C T連携部会※
開催日	第2回：令和3年11月4日（月）	第2回：令和3年11月25日（木）	第2回：令和3年10月5日（火） 第3回：令和3年12月9日（木）	第2回：令和3年12月1日（水）
目指す姿	本人が安心できる場所で専門職の支援を受けながら穏やかに暮らすことができる。	入退院の際に、医療機関・介護事業所等が情報共有を行うことで、本人・家族が望む場所で、不安なく穏やかに日常生活を過ごすことができる。	各ステージで食支援に対応できるチームが増えるとともに、本人・家族が納得できる看取りに向けて準備ができる。また、自宅か病院かで心が揺れていても、希望に応じた選択ができるように体制を整える。	【部会としての目指す姿】 医療と介護の連携をI C Tにてそれぞれ円滑に行うようにする。
「課題解決へ向けた展開プロセス」について	「目指す姿を達成するために必要なこと」の4項目を抽出し、当該4項目のうち、どの項目を展開して検討するかは、第3回部会の開催までに事務局から事前課題として照会を行うこととした。その後、「現状」、「課題」、「課題が生じている背景や原因」について、別途事前課題として、検討することとした。	「目指す姿を達成するために必要なこと」の4項目を抽出し、当該4項目の微修正やどの項目を展開するかについては、部会長及び事務局で持ち帰り検討することとし、結果については一任となった。その後、「現状」、「課題」、「課題が生じている背景や原因」について、別途事前課題として、検討することとした。	「目指す姿を達成するために必要なこと」の6項目を抽出し、「現状」、「課題」、「課題が生じている背景」等全ての項目について、プロセスに当てはめ、次の4点の具体策を立案した。第3回の部会では、具体策の詳細について検討を行い、下記のとおり決定した。	—
具体策	—	—	1 医療・介護従事者向けの看取り講演会を行う（詳細は、下記参照）。 2 令和4年度に急変時対応・看取りに関する市民講座を行う（動画配信についても要検討）。 3 令和4年度に急変時対応・看取りに関するパンフレットを作成する。 4 市内の各医療機関へ看取り等に関するアンケートを行う。	—
その他決定事項等	令和3年10月20日 第10回多職種連携研修「特別養護老人ホームについて学ぼう！」を実施 令和4年3月1日 第11回多職種連携研修として、通所介護等に係る研修会を実施予定	「患者基本情報シート」は使用しないこととし、市として新たなシートの作成は行わないこととした。	令和4年1月26日及び同年2月2日 看取り講演会「対話から始めるACP～現状確認ツールIMADOKOを活用した事例とグループワーク～（全2回）」を実施予定	各事業所のM C Sの活用状況について把握するため、アンケートを実施することとし、アンケート内容等に関する協議を行った。 令和4年1月上旬配信、令和4年1月28日締切 令和3年11月17日 I C T研修会「みまもりあいアプリについて知ろう！」を実施 令和4年2月16日 M C Sに関する研修会を実施予定
次回	第3回：令和4年3月3日（木）	第3回：令和4年3月10日（木）	第4回：令和4年3月17日（木）	第3回：令和4年3月2日（水）

※ I C T連携部会については、国が定める4つの場面（日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り）に合致しないことから、「課題解決に向けた展開プロセス」に沿った検討を行っていないため、他の部会と異なる進め方となっている。

会 議 録				
令和3年度第2回 入退院支援部会	日 時	令和3年11月25日(木) 午後7時～午後8時19分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	部会長	執行 真之 (ひがこ訪問看護ステーション)	
		副部会長	漆原 めぐみ (桜町病院)	
		部会員	瀬口 秀孝 (桜町病院)	
		部会員	野中 慎吾 (のなか歯科医院)	
部会員		水越 新人 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)		
部会員		佐藤 雅彰 (アトム薬局)		
部会員		出川 恵美 (居宅介護支援事業所つきみの)		
部会員		天野 秀達 (花物語こがねいナーシング)		
部会員		高橋 徹 (ひがし地域包括支援センター)		
	委員外	田中 功一 (田中整形外科)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任	岡崎 章尚	
		介護福祉課包括支援係主任	木津 恵美子	
		小金井市在宅医療・介護連携支援室	川崎 恵美	
欠席者	富永 智一 (小金井ファミリークリニック)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由			-	
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 入退院時情報連携シートについて				
(2) 入退院支援の「目指す姿の達成に必要なこと」、「現状」等について				
3 その他				

1 開会

部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 入退院時情報連携シートについて

ア 事務局から資料 1 を用いて説明した後、次のとおり協議を行った。

- ㊦ 介護支援専門員の各事業所が使用する介護ソフトに厚生労働省が示す内容が網羅されており、加算が取れるようになっていることから、そちらに入力している。それを出力し、入院先へ送付している。
- ㊧ 病院側としては、迅速に情報を取得できることが重要であり、必要な情報が入っていれば、様式が定まっている必要はない。
- ㊨ 病院側としては、居宅支援事業所からいただいた情報を病棟と共有するため、ファクシミリ使用が多い。
- ㊩ 全ての介護支援専門員が、国が示す内容を網羅した介護ソフトを採用しているか確認が必要である。

イ 上記アの意見を踏まえて、次のとおり決定した。

- ㊦ 市として新たなシートの作成は行わない。
- ㊧ 国の方針では、ICT 推進を掲げている。紙媒体の方が現状は便利かもしれないが、転換も必要であり、ICT 化に向けた引き続きの検討が必要（ICT 連携部会との共通課題である。）

(2) 入退院支援の「目指す姿の達成に必要なこと」、「現状」等について

ア 事務局から資料 2 から資料 4 までを用いて説明した後、「目指す姿の達成に必要なこと」について、協議を行った結果、次のような意見が出た。

- ① 本人・家族の意思の確認
- ② 関係者の情報共有・把握
- ③ 退院前カンファレンスの実施
- ④ 退院後の必要な体制の整備・可視化

イ 上記アのうち、どの項目を展開し、検討していくか確認したところ、④を求める意見が多く出た。

ウ 上記アの④に係る現状について、確認したところ、次のような意見が出た。

- ㊦ 情報が整理できていない。複数の事業所へ一度に連絡できるツールがあれば良い。
- ㊧ 各事業所へ個別に連絡するとニュアンスの違いや受取り方で認識に差異が生じることがある。
- ㊨ 入院中の情報が分からない。退院日に突然連絡が来る場合もある。

- (イ) がん末期の方の状態共有にMCSを活用したがとても便利だった。
 - (ロ) 比較的元気な方の入退院が最近多い。退院カンファレンスに参加出来る人や人数が限られているので、同じ内容が関係者全員に伝わると良い。
 - (ハ) 褥瘡の処置の申し送りなど対面でないと難しいことがあったが、写真データでのやり取りなど便利なことが分かってきた。
 - (ニ) 嚥下状態を録画等して施設側に確認してもらうなどした。
- エ 上記ウのとおり、現状について、上記アのうち④よりも②に関する意見が多く出たことから、②について展開してはどうかという意見が出た。他方、②の検討に当たっては、①の視点を常に大事にしていかなければならないという意見が出た。
- オ 「目指す姿の達成に必要なこと」の表現方法、取りまとめ方、どの項目を展開するかについては、事務局で持ち帰り部会長等と検討することとし、結果については一任となった。

3 その他

次回予定 令和4年3月10日（木）午後7時から

会 議 録				
令和3年度第2回 急変時対応・看取り支援 部会	日 時	令和3年10月5日(火) 午後7時～午後8時20分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 大井 裕子 (桜町病院) 副部会長 譜久村 翔 (WLIFE訪問看護センター) 部会員 宮本 諭 (宮本内科医院) 部会員 大山 美奈子 (小金井太陽病院) 部会員 三村 義仁 (みむら歯科) 部会員 高橋 賢晃 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 長澤 由起子 (薬剤師会) 部会員 小嶋 理絵 (あんずケアプランセンター小金井) 部会員 堀内 成浩 (ケアサービスステーション春風) 部会員 大岩 謙介 (グループホームのがわ) 部会員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター)		
	委員外	斎藤 寛和 (さいとう医院) 森田 洋彰 (にじいろ薬局)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	なし			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	1人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		-		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) これまでの検討状況について				
(2) 急変時対応・看取り支援の「現状」、「課題」及び「課題が生じている背景や原因」について				
(3) その他				
次回日程について				

1 開会

部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明、前回欠席者の自己紹介を行った。

2 議題

(1) これまでの検討状況について

事務局から資料 1 及び資料 2 を用いて説明

(2) 急変時対応・看取り支援の「現状」、「課題」及び「課題が生じている背景や原因」について

ア 事務局から資料 3 を用いて説明した後、各部会員から次のとおり「現状」等を発表

(7) 急変時や看取りの対応として、慌てて救急車を呼び、救命措置が行われた後に、家族から延命を求めている旨伝えられた事例があった。救急車で搬送されてきた患者は助ける前提で対応するため、急変する前に本人や家族が慌てずに対応できるように理解してもらうことが大事

(8) 医療介護チームの中でも各専門職の役割があり、多職種間の中で役割分担が明確になっていない。

(9) 医療介護チームの間でも患者本人の情報共有の方法が一本化できていない。

(10) ACP について本人や家族の意思が分からないため、医療介護チームが家族に正しい対応を伝えることができない。できれば入院している間に、本人や家族と医療介護チームが今後どのような在宅医療を求めているのか、自宅で万が一の事態が起きたときはどうしたいのかの意思をお互いに確認することが必要

(11) 同じ職種でも医師や事業所によってできる医療・ケアが異なるため、本人や家族が亡くなるまでにどのような医療を求めているのかを事前に話し合っておかないと、多職種間で役割分担を互いに理解することが難しい。

イ 上記アの意見を踏まえ、目指す姿の達成に必要なこととして次の 6 項目にまとめた。

(7) 医師・看護師が看取りプロセスを理解する。

(8) 本人や家族がどこでどんな風に過ごしたいのかを把握する。

(9) 各専門職の持つ役割を明確にする。

(10) チームとして本人の情報共有ができるようにする。

(11) チームとして本人の現状を把握し、誰もが必要な情報を本人・家族に伝えることができる。

(12) 市民への看取り教育をする。

ウ 上記イを大きく分類すると次の4点の取組が必要との意見があった。

- (ア) 看取りを見すえた人生の最期の過ごし方を市民がイメージできるような市民向け講座
- (イ) 専門職も看取りに向けた自身の人生の最期をイメージし、さらにはそれを患者さんに伝えるための研修（看取り講演会）
- (ウ) 急変時の対応
- (エ) 専門職の連携

エ 上記ウ(ア)、(イ)及び(ウ)の具体的な取組として、次のような意見があった。

- (ア) 市民向け講座について

今年度の予算内で何かしらの看取り講演会の開催は可能。ただし、コロナ禍で集合型の研修ができるのか否かは検討の必要がある。

→ 市民への普及啓発として毎年「お元気サミット」で講師を呼んで講演会等を行っていたが、昨年と一昨年はコロナ関連で中止となった。今年は展示のみの「お元気サミット」を行う予定ではあるが、コロナウィルスが収束していないため、講演会の実施は難しいと思う。

また、市民やその家族へ救急車を呼ぶ意味やACPに関して市民教育が必要。具体的な在宅看取りの事例を劇等にして紹介することで具体的に市民がイメージできるかも知れない。動画をいろいろなところで見られるような工夫などを検討する。

急変時に救急車を呼ぶのはどういう意味があるのか、病院に搬送されたらどういう流れになるのか、そうならないためにどんな話し合いが必要なのかを市民が分かるように、急変時の対応と看取りに向けた市民への理解を広げるためのリーフレットを作成等で周知を検討する。

- (イ) 看取り講演会について

今年度の看取り講演会について、小金井市としてはACPをテーマに加えて開催したいと考えている。ただし、ACPと今後の見通しをどう伝え話し合うか、ということは切り離せないため、今年度はACPをテーマとして2回の講演会を開催する。詳細については、従来どおり桜町病院の大井先生に講師を依頼し、市民講座で紹介する内容を医療・介護専門職がまずは自分たちが学ぶための構成とし、専門職向けへの理解や教育の場をつくっていきたい。

- (ウ) 急変時の対応について

急変時の対応は、必ずしも看取りを見据えた場合に限らず、誰もが自分に何かが起こったときどうしたいかということを話し合えるように、と考える。

- (エ) その他

市内の4つの病院が小金井市の看取りや急変時の対応において果たす役割を大井部会長がインタビューして共有する。また、開業医が在宅でこれ以上の診療は無理だと思ふのはどんなときなのか、受け入れる病院医師の意識はどうなのかについて調査してみる。

3 その他

次回予定 令和3年12月9日(火) 午後7時から

会 議 録					
令和3年度第3回 急変時対応・看取り支援 部会	日 時	令和3年12月9日(木) 午後7時～午後8時16分	場 所	Web会議	
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課				
出 席 者	委 員	部会長	大井 裕子 (桜町病院)		
		副部会長	譜久村 翔 (WLIFE訪問看護センター)		
		部会員	宮本 諭 (宮本内科医院)		
部会員		三村 義仁 (みむら歯科)			
部会員		高橋 賢晃 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)			
部会員		長澤 由起子 (薬剤師会)			
部会員		小嶋 理絵 (あんずケアプランセンター小金井)			
部会員		高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター)			
	委員外	森田 洋彰 (にじいろ薬局)			
	事務局	介護福祉課包括支援係主任	岡崎 章尚		
		介護福祉課包括支援係主任	木津 恵美子		
		小金井市在宅医療・介護連携支援室	川崎 恵美		
欠席者	大山 美奈子 (小金井太陽病院) 堀内 成浩 (ケアサービスステーション春風) 大岩 謙介 (グループホームのがわ)				
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—		
次 第					
1 開会					
2 議題					
(1) これまでの検討状況について					
(2) 急変時対応・看取り支援の「具体策」について					
(3) 看取り講演会について					
3 その他					
次回日程について					

1 開会

事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) これまでの検討状況について

事務局から資料 1 を用いて説明

(2) 急変時対応・看取り支援の「具体策」について

(3) 看取り講演会について

事務局から資料 2 及び資料 3 を用いて説明した後、次のとおり協議を行った。

ア 看取り講演会について

(7) ACP を含めて、医療・介護従事者に向けた内容で 2 回に分けてグループワークで行うこととする。

(8) がん患者の終末期や認知症患者の老衰等、施設における終末期も含めて講演会ができれば良いと考えている。

(9) 現状確認ツール IMADOKO を活用した事例講演会としたい。

イ お元気サミットに代わる市民講座について

令和 3 年度のお元気サミットは実施済みであり、令和 4 年度のお元気サミットは 11 月 9 日・10 日に実施予定である。そこまでに時間を掛けて検討していきたい。以前に作成した動画など既にある素材を持ってきて配信するのも良い。どのようなアイデアがあるか、次回の部会までの宿題としたい。

ウ 急変時看取り対応のパンフレット作成について

(7) パンフレットは、患者や家族向けのものとし、急変時看取り対応と歯科対応のたたき台を作成した上で、MCS で意見をいただくこととする。

(8) 令和 3 年度中に作成することは期間的に難しいため、令和 4 年度中に作成することとする。なお、令和 4 年度当初予算として、印刷製本費を 159,000 円（税込み）要求している。

(9) パンフレットのタイトルが決まっていると今後の検討が進めやすい。タイトルは、「もしものときどうする？」とする。

(10) パンフレットの作成に当たり、参考資料が手元にないと考える際に分かりづらいので、事務局を經由して各委員へ参考資料を配布する。

エ 小金井市内の各病院等へ役割と得意分野のインタビューについて

(7) 前回部会では、「インタビュー実施」としていたところ、「アンケート調査実施」に改める。調査票案の作成に当たり、配慮・工夫した点は次のとおり

- a 末期がんと老衰（臓器不全）への対応方法が異なるので、質問内容を変える工夫をした。老衰と一緒に考えて良いのは認知症だと考え、末期がん

と老衰は異なるものと考えた。

- b 訪問診療の予定が入っていたにもかかわらず、急変してしまうこともあり、医師として在宅医療への移行をどのように考えているのか聞きたい。
- (4) がん患者の例でいえば、この先起こるであろう体の異変が、予想どおりに来る人もいれば、来ない人もいる。また、医師が体の異変に対してどこまで在宅医療で対応できるか。医師によっては痛みが出てきて内服や座薬や注射でコントロールができるようなら在宅で患者を診ている場合もある。医師によって対応は異なると思う。
- (5) 医師も家族も予想していなかった病状が発生した時の対応として、救急搬送するかどうかを家族や多職種間で、いつどこで話し合うのか。
- (6) 医師は本来ある疾患以外の病状が発生した時に救急車を呼んでほしいと話すことが多い。今回のアンケート調査で救急搬送についての考えを在宅医に聞きたい。
- (7) 患者の状態が悪くなった時に、家族に患者の状態を伝えると告知になってしまうので、なかなか医師として今後どうするのか等の話が出来なかった。
- (8) 患者本人が在宅医療を受けようとするときに、病気のことを家族や本人に伝える際には医師の言葉が絶対なので、今後の人生をどのように過ごして行きたいかを話していく上でも、医師から病状などを伝えてほしい。
- (9) 本人に現在の病状を伝えた上で、多職種間での情報共有をしていきたい。
- (10) 在宅療養しているから救急車を呼ばないということではなくて、どうなったら病院へ行くのかという認識を共有していけると良い。また、その時に救急車で、関わりのない病院に行くのではなく、市内に桜町病院や太陽病院があることを伝えられたら良い。それをパンフレットの内容にも盛り込みたい。
- (11) 医師から家族に本人の病状がうまく伝わっておらず、様態の急変に伴い家族が救急車を呼んでしまい、救急搬送され亡くなったケースがある。家族はどうして危篤だということを言ってくれなかったのかと話していたことがあった。医師から伝えられないことが周りから分かっていたら、多職種の立場から家族に伝えることはできたのではないか。
- (12) 看護師の立場からすると、医師から本人や家族へ寿命について伝えておいてくれると、家族や本人にどのように過ごしたいのか等を話していけるし、多職種間で共有することができるとその人の希望につなげやすいと思う。
- (13) アンケート調査内容は、委員からの意見を伺って少し変更することとする。

3 その他

次回予定 令和4年3月17日（木）午後7時から

会 議 録				
令和 3 年度第 2 回 I C T 連携部会	日 時	令和 3 年 1 2 月 1 日 (水) 午後 7 時 3 0 分～午後 8 時 3 8 分	場 所	W e b 会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	部会長 田中 功一 (田中整形外科) 副部会長 戸原 雄 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 齋藤 優喜子 (桜町病院) 部会員 橋詰 雅志 (歯科診療室 橋詰) 部会員 中原 昌則 (伯雲堂薬局) 部会員 前田 芳博 (指定居宅介護支援事業所赤とんぼ) 部会員 曾我 信也 (パーソナルケアサービス小金井かいわい) 部会員 清水 智恵 (訪問看護ステーション国立メディカルケアサテライト) 部会員 田口 重和 (みなみ地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主任 岡崎 章尚 介護福祉課包括支援係主任 木津 恵美子 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	内山 雅之 (うちやまクリニック) 立岡 慎哉 (桜町聖ヨハネホーム)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) I C T 研修会「みまもりあいアプリ勉強会」についての振り返り				
(2) 2 月の I C T 研修会について				
(3) 各部会のこれまでの検討状況について				
(4) 今後の I C T 連携部会の課題について				
① 現在の他職種間の情報共有方法について				
② より便利な情報共有方法への移行について				
3 その他				
次回日程について				

1 開会

部会長挨拶の後、事務局から連絡事項の説明等を行った。

2 議題

(1) ICT研修会「みまもりあいアプリ勉強会」についての振り返り

事務局から資料 1 を用いて説明した後、参加した委員から感想を聴取した。

(2) 2月のICT研修会について

事務局から資料 3 を用いて説明した後、協議を行い、次のとおり決定した。

ア 研修会の実施方式として、対面方式、対面とWebのハイブリット方式、Web方式の3パターンが考えられるところ、ケアマネを対象としたMCSの研修会とすると、Web方式では難しいと思われるため、対面とWebのハイブリット方式とする。

イ 会場参加可能人数は10人とし、Webでの参加は職種に関わらず参加可能とする。

ウ 現在MCSを利用していないケアマネを研修会に招待する。

エ 研修会当日は午後7時から30分程度、MCSの運営会社であるエンブレース社に説明してもらい、後半30分で成功事例2件と失敗事例1件を説明してもらう。全体で、1時間で収まる研修会とする。

なお、エンブレース社は夜間帯に研修を行う場合、1回当たり3万円の費用を要するが、予算措置済みのため、費用を支払った上で実施する。

オ MCSの運用の方法と運用した時のメリットを研修会で伝えることとし、ケアマネのモチベーションを上げるため、今までよりも仕事が楽になるということをアピールする。

カ 事例発表に当たっては、小金井市介護事業者連絡会の訪問看護部会で、登壇者を諮ることとする。

キ 部会長は、診療時間の関係で午後7時から参加できないため、司会は支援室の川崎氏が行う。

(3) 各部会のこれまでの検討状況について

事務局から資料 2 を用いて説明の上、他部会との連携は今後の状況を踏まえ検討していくこととなった。

(4) 今後のICT連携部会の課題について

① 現在の他職種間の情報共有方法について

② より便利な情報共有方法への移行について

副部会長から資料 4 を用いて説明した後、協議を行い、次のとおり決定した。

ア アンケートの内容については、副部会長に一任する。

イ 集計することを考えると実施方法はファクシミリ以外の方法とする。

ウ Google フォームでアンケートを行う場合でも、各団体の代表に周知・メール配信等をお願いする。

エ アンケートの内容は完成したものを M C S で各委員が確認する。

3 その他

(1) 科学的介護情報システム「L I F E」についての研修機会があると良いとの意見があった。

(2) みなみ包括支援センターからみまもりあいアプリを使用して検索模擬訓練（かくれんぼ）を考えている旨の発言があった。貫井けやき公園で令和 3 年 1 2 月 4 日実施予定の道草市（地域の交流会）でみまもりあいアプリの周知を行い、令和 4 年 7 月 4 日にみまもりあいアプリを使用したかくれんぼをやりたいと思っている。これを受け、事務局からみなみ包括支援センターへ検索模擬訓練のマニュアルを送ることとした。

(3) 次回日程について

令和 4 年 3 月 2 日（水）午後 7 時 3 0 分から